

山口県環境負荷低減事業活動事例集 Vol.1

～土づくり+化学肥料・化学農薬の削減に取り組む農業者～



令和8年（2026年）3月
山口県みどりトータルサポートチーム

この事例集について

この事例集は、環境負荷低減に取り組むJA生産部会等の事例を取りまとめたものです。関係者のみなさまに各地での取組実施の参考としてご活用いただければ幸いです。

※この事例集は、みどりの食料システム戦略緊急対策交付金（令和6年度補正）のうち環境負荷低減活動定着サポートの支援を受けて作成したものです。
※掲載情報は、令和8年3月末現在の情報です。

山口県の環境負荷低減活動の取組 ～農業分野～

山口県では、次の3つの技術を一体的に導入し、化学肥料・化学農薬を県慣行レベルから低減を目指す農業者の取組等を支援しています。

※山口県慣行基準は山口県農業振興課HPに掲載しています。
「山口県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針 作物別認定基準」
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/103/22361.html>

1 土づくりの技術

たい肥等の有機物やレンゲや菜の花等の緑肥作物を土にすき込むことなどにより、作物の生育に適した土づくりを実施



2 化学肥料を減らす技術

有機質肥料の利用や、局所施肥（植物が利用しやすいように根の周辺に肥料を与える方法）などにより、化学肥料の量を削減



3 化学農薬を減らす技術

病害虫の発生しにくい環境づくり（周辺の草刈り、病気に強い品種の選択）や化学農薬に頼らない防除方法の選択（防虫ネット、害虫を食べる天敵の利用、天然物由来の農薬の使用等）などの取組により、化学農薬の散布回数を削減



化学肥料や化学農薬の使用状況と用語の関係

農業全体（慣行栽培）

環境保全型農業

（土づくり+化学肥料・化学農薬低減）

特別栽培農産物

（化学肥料・化学農薬5割以上低減）

有機農業

（化学肥料・化学農薬不使用）

有機JAS

（国登録機関が審査・認証）



エコやまぐち農産物



みどり認定
（エコファーマー）

○みどり認定（エコファーマー）

化学肥料・化学農薬を県慣行レベルから**3割以上低減**することを目指す**農業者の計画を県が認定**

*みどりの食料システム法に基づく制度への変更に伴い、エコファーマーは「みどり認定」の1区分となりました。

○エコやまぐち農産物

化学肥料・化学農薬を県慣行レベルから**5割以上低減** 又は **栽培期間中不使用**で生産された**農産物を県が認証**

*国の特別栽培農産物に係る表示ガイドラインに準じた制度

岩 国

あきまつり部会

～主な品目～
水稻

実施体制

設 立 H25.3
代 表 者 部会長 末永雅晴
会 員 11名

岩国市



面積情報

栽培面積 544.2 a

1 設立経緯など

あきまつりは山口県で誕生した品種で、中山間地の朝晩の寒暖差が生んだ粘り、味、香りに優れたお米です

山口県が勧める「環境へ配慮した栽培」をするため、化学肥料や化学農薬を削減した栽培に取組を開始しました。

- *エコファーマー取組開始：H25～
- *エコやまぐち農産物／エコ50に取組

2 販売情報

【品目】
水稻（エコ50／あきまつり）

【出荷時期】
通年

【主な販売先】
JA農産物直売所 FAM'Sキッチンいわくに

3 主な取組内容

【生産面】

- 化学肥料・化学農薬を県基準より50%以上低減する、エコやまぐち農産物の認証エコ50に取り組んでいます。
- 土づくりのため、地元畜産農家と連携し、堆肥を施用しています。

【消費・販売面】

- 化学肥料・化学農薬を通常の50%以下に低減した特別栽培米で、食品安全や環境保全に配慮しています。

【表彰歴等】

R1：大嘗祭献上米

品種「あきまつり」
実りの様子

採種ほ場の審査風景



新規生産者募集PR

後継者育成にも
取り組んでいます

4 今後の展望

生産部会員の生産意欲を高めるため、食味コンテスト等へ出品する等行っており、高いスコアを出しています。

新規生産者を募集するなどの活動を行いながら、今後も作付面積を拡大して安定供給に取組んでいきます。

5 アピールポイント

山口県が開発したオリジナルブランド米で、山口県内でも岩国と萩でしか作られていない貴重なお米です。

中山間地の朝晩の寒暖差が生んだ粘り、味、香りに優れていますので、ぜひみなさんご賞味ください。

問い合わせ先

JA山口県岩国統括本部 指導販売課

TEL:0827-28-6318

南すおう

田布施イチジク部会

～主な品目～
いちじく

実施体制

設立 S58.6
代表者 部会長 水津良重
会員 15名

面積情報

栽培面積 1ha



田布施町
平生町
柳井市

1 設立経緯など

田布施町で水田転換作物の一つとしていちじく栽培が始まり、地元の有志数名で共販部会を設立
(近隣の平生町・柳井市の生産者も参加)

*エコファーマー取組開始：H17～

2 販売情報

【品目】

いちじく
(柘井ドーフィン・蓬萊柿・ビオレーソリエス)

【出荷時期】

7～10月

【主な販売先】

県内市場(徳山・岩国)、JA遊気百菜館、地元スーパー、直売所

3 主な取組内容

【生産面】

- ・ 堆肥を使った土づくり
- ・ 栽培講習会、ほ場巡回
- ・ 新規部会員獲得の為の取組
(栽培説明会、栽培講座)

【消費・販売面】

- ・ 産地見学会
- ・ 地元スーパーとの相対取引
- ・ 規格外品を加工用いちじくとして地元業者や農業高校、直売所にて販売
- ・ 田布施町と協力し「いちじくワイン」を製造
(2年に1回)

【表彰歴】

H2：山口県農業振興賞受賞
H6：朝日農業賞受賞



田布施のいちじく



出荷規格を確認し合う生産者



いちじくワイン

4 今後の展望

- ・ 部会員の高齢化が進んでいる為新たな部会員獲得に向け、低コスト栽培等を検討していきたいです。
- ・ 既存部会員の収量向上のため、夏期の高温対策も検討していきたいです。

5 アピールポイント

当産地ではハウス栽培中心で、果実を風雨から守り、見た目も美しく高品質に仕上がっています。

傷みやすい果実なので地元中心の販売となっていますが、田布施いちじくを使用した加工品の販売が充実しています。

周南

農事組合法人ファームつるの里

～主な品目～
 水稻・大豆・麦等

実施体制

設立 H18.2
 代表者 代表理事 森次高志
 所在地 周南市大字八代818番地の2
 公式HP <https://www.tsurunosato.or.jp/>



面積情報

経営面積 493ha（水稻、麦、大豆など）

1 設立経緯など

「子ども100人 鶴100羽」をスローガンにナベヅルとの共生を目指し、環境と人に優しい農産物の生産を進めることを目的に設立

- *エコファーマー取組開始：H18～
- *エコやまぐち農産物/エコ100・エコ50に取組

2 販売情報

【品目】
 水稻（エコ100/コシヒカリ、エコ50/コシヒカリ・ひとめぼれ・まんげつもち、酒米（山田錦））
 大豆（エコ50/サチユタカ）
 麦（せときらら）
 【出荷時期】
 米：周年
 【主な販売先】
 JA等の直売所、オンライン販売

3 主な取組内容

【生産面】

- ・ツルの生態に配慮した営農の実施（冬期湛水）
- ・化学肥料・化学合成農薬を削減した栽培の実践（エコ100、エコ50）
- ・ICTを活用した栽培管理の実施

【消費・販売面】

- ・地元酒造会社と連携し、酒米を契約栽培
- ・自社農産物の加工品製造（味噌、おかき、甘酒）
- ・消費者との交流イベントの実施（田植え祭り）

【表彰歴】

H22：山口県農山村振興賞
 H27：周南ブランド認定
 H31：山口県農業協同組合中央会会長賞



地域の仲間で行う田植えイベント



冬期湛水
 稲刈りが終わった水田に冬場も水をためます



4 今後の展望

微生物やカエルの産卵場所、ドジョウなど多くの水生生物の生息場所を確保しています。これらの生きものを捕食するナベヅルが飛来する、ツルに優しい農業を目指して取り組んでいます。

5 アピールポイント

本州唯一のナベヅルの越冬地として、特別天然記念物「八代のツルおよびその渡来地」に指定されています。

この地で、私たちは生態系と環境に配慮した環境保全型の農業を営んでいます。

おいしくて環境にやさしい活動が私たちの自慢です。

問い合わせ先

農事組合法人ファームつるの里 TEL：0833-44-7550

防府とくぢ

とくぢエコ農法研究会

～主な品目～

水稻

実施体制

設立 H17.10
 代表者 会長 井原 治
 会員 9名

山口市徳地地区



面積情報

栽培面積 356.3a

1 設立経緯など

環境保全型農業を中心に地域農業を研究し、本来あるべき農の姿を実現する事を目的とすると同時に、暮らせる農業の確立を目指す活動を実施

- *エコファーマー取組開始：H21～
- *エコやまぐち農産物／エコ50に取組

2 販売情報

【品目】
 水稻（エコ50／ひとめぼれ）

【出荷時期】
 通年

【主な販売先】
 JA農産物直売所 とれたて満菜

3 主な取組内容

【生産面】

- 化学肥料・農薬の低減
 →環境保全のために化学肥料・化学農薬を県慣行基準の50%以内に削減して生産に取り組んでいます。
- 栽培技術向上に向けた取組(ほ場巡回)
 →生産者が栽培中のほ場を巡回し、栽培状況や病害虫発生を確認し、必要な栽培管理を行っています。
- 田んぼの生き物調査
 →環境に配慮した栽培を行って、栽培圃場内をすみかとする生き物を種類別に確認して記録しています。

【消費・販売面】

- 直売所での消費拡大
 →子育て世代や、化学肥料・化学農薬の50%低減に着目した消費者を中心に、地元農産物直売所での販売を行っています。



田んぼの生き物調査



田んぼで見つけた生き物たち



出荷物検査の様子

4 今後の展望

本来あるべき農の姿の実現と暮らせる農業の確立を目指して活動しています。徳地の豊かな自然の中で米作りに取り組んでいます。

化学肥料をれんげや鶏ふんに変えて経費を低減し、高齢化問題にも対応しながら、継続的な農業の普及を目指しています。

5 アピールポイント

環境に配慮した農業を行いながら、化学肥料・農薬の低減に取り組んでいます。

問い合わせ先

JA山口県防府とくぢ統括本部 北部営農センター TEL：0835-52-1773

山口

大内ブルーベリー生産部会

～主な品目～
ブルーベリー

実施体制

設立 H19.5
代表 部会長 荒瀬澄枝
会員 28名
公式HP <https://pcp.rgr.jp/ouchibb/index.html>

山口市大内地区



面積情報

栽培面積 108a

1 設立経緯など

「大内をブルーベリーの里にする」を合言葉に地域生産者とJA指導員で、H16から新たな特産品としてのブルーベリーを栽培

*エコやまぐち農産物/エコ50に取組

2 販売情報

【品目】

ブルーベリー（エコ50）
*生食・加工約13品種、ブルーベリージャム

【出荷時期】

6月上旬～8月下旬

【主な販売先】

JAぶちええ菜山口店、大内ふれあい市他

3 主な取組内容

【生産面】

山口市を流れる樫野川の上流、仁保川・問田川に挟まれた大内地区では、ブルーベリー栽培が盛んで、毎年約2トンを生産しています。

大粒で高品質の果実を生産するために、部会独自の勉強会や栽培試験を行い、栽培技術の向上を図っています。

また、ブルーベリー栽培において、安全・安心にこだわった減農薬栽培を行っています。

【消費・販売面】

認知啓蒙活動として地域住民向けの栽培講習会や、ジャム作り体験会、ブルーベリー祭りの開催等を行っています。

また田布施農高と商品開発をしたブルーベリージャムをサービスエリアにて限定販売を行ったり、地元洋菓子店への提供、山口地ビールとのコラボレーション等に取り組んでいます。

【表彰歴】

R7：山口県農林水産振興賞



目合わせ会



現地講習会



県農林水産振興賞を受賞

4 今後の展望

現地剪定研修会や部会ブログ等の情報発信を通じて今後も普及啓もう活動を行いながら、大粒で高品質な果実を目指します。

独自の勉強会や栽培試験で技術向上を図りながら、ブルーベリーの美味しさを伝えます。

5 アピールポイント

大内ブルーベリー生産部会は、消費者の皆さんに喜んでもらえるブルーベリー作りに日々励んでいます。

太陽の恵みと私たち生産者の愛情で育った美味しいブルーベリーをお届けしています。

問い合わせ先

JA山口県山口統括本部 山口中央営農センター TEL：083-934-4800

宇部

有限会社 グリーンハウス

～主な品目～

ねぎ、チンゲンサイ、ミニトマト

実施体制

設立 H6.8
 代表 代表取締役 松村正勝
 所在地 山陽小野田市西高泊3608番地
 公式HP <https://zan-mai.jp/>



面積情報

経営面積 施設4.9ha、露地5.1ha

1 設立経緯など

30年前に米麦中心の経営を先代が開始。
 H6に現社長が有限会社を設立し野菜栽培へ転換。
 H24からは、安定的且つ持続可能な農業経営を
 目指してGAPに取り組む。

*エコファーマー取組開始 H15～

〔企業理念〕
 農業界のトップランナーになる。三大作り（土作り・物作り、人作り）を目指します。
 健康な土作り、その土地で実る野菜作り、そして地元、消費者に愛される会社作り。
 関きと進歩
 関いた事を即座に実践し、日々進歩してゆく「関きのないところに進歩なし」を言葉
 に努力しています。

2 販売情報

【品目】

ねぎ（おのだネギ三昧）、ちんげんさい（おのだ
 青梗菜）、ミニトマト、エダマメ、ズッキーニ

【出荷時期】

ねぎ：通年 ちんげんさい：1～4月
 ミニトマト：11～6月 エダマメ：6～7月
 ズッキーニ：5～6月

【主な販売先】量販店※取引市場：県内青果市場、
 県外青果市場（広島・大阪・東京）

3 主な取組内容

【生産面】

- ・GAP導入による作業の効率化及びマニュアル化等の経営改善を実践
 H26:JGAP認証取得
 H30:ASIAGAP認証取得
- ・女性や若者を積極的に雇用するとともに、働きやすい職場環境や人材育成の仕組みづくり等を実施
- ・肥料価格高騰のため、減肥の取組や適正な肥料設計（土壌分析）を実施

【消費・販売面】

首都圏への販路拡大

【表彰歴】

- H17：山口県農山村振興賞
- H18：第45回農林水産祭
 農林水産省生産局長賞・全農会長賞
- H24：全国優良経営体表彰
 法人経営体部門 農林水産省経営局長賞
- R1：未来につながる持続可能な農業推進コンクール
 GAP部門 農林水産省生産局長賞
- R2：農山村女性活躍表彰
 女性活躍経営体部門農林水産大臣賞



露地栽培の様子。
 主に業務用で使用される
 ねぎになります。



おのだネギ三昧
 100g束/袋



ビニールハウス栽培の
 様子

4 今後の展望

若い世代が農業で豊かに暮らしていけるか
 を実現していく。

また、意欲あるスタッフが最大限活躍できる
 よう制度の更新を続けていき、多様な人材
 が活躍する農業を目指す。

5 アピールポイント

干拓地の塩分ストレスと灌水制限で鍛えら
 れた濃厚な味と豊かな風味が特徴です。

食感も良いのでサッと茹でてサラダにして
 食べたり、ネギをふんだんに使用したネギ焼
 きもおすすめてです。

是非ご賞味ください。

問い合わせ先

有限会社グリーンハウス TEL：0836-83-0479 FAX：0836-39-7368

下 関

菊川レインボー稲作研究会

～主な品目～

水稻

実施体制

設 立 H4.3
代 表 者 部会長 篠田知昭
会 員 16名

下関市菊川町



面積情報

栽培面積 14ha（アイガモを活用した除草）

1 設立経緯など

アイガモによる除草を活用した有機農業を中心に、化学肥料・化学合成農薬の使用を低減した環境保全型農業に取り組む有志で結成

*エコファーマー取組開始 H15～

2 販売情報

【品目】
水稻

【出荷時期】
9月～12月

【主な販売先】
グリーンコープ

3 主な取組内容

【生産面】

- ・堆肥や緑肥を使った土づくり
- ・化学肥料・化学合成農薬を削減するための栽培技術の導入（アイガモ放飼や米ぬか散布による除草・抑草、温湯種子消毒、疎植栽培など）
- ・栽培技術向上に向けた取組（勉強会、ほ場巡回など）

【消費・販売面】

- ・販売先との契約栽培
- ・園児を対象としたアイガモの放鳥行事や、田植え・稲刈り等の農作業体験を通じた消費者との交流
- ・地域イベントへのアイガモ肉を提供し、環境保全型農業のPRを実施

【表彰歴】

H27 多面的機能発揮促進事業
中国四国農政局長表彰優秀賞受賞



アイガモ農法の様子



地元小学生の体験会で子供たちが農業や動物との触れ合いを通じて学べる機会を提供



菊川地区
アイガモ農法の
案内看板

4 今後の展望

座談会等を通じた会員募集により新規会員が加入する一方、高齢化により退会される方もいるため、地域外の加入希望者の受け入れを検討するなどして、生産量の維持・拡大に努めていきたいと考えます。

自然の循環を活用した優しい農業であることをPRしていきたいです。

5 アピールポイント

アイガモ農法は、環境に優しく、お米の品質を高めます。

消費者の方に、食に対する関心をより高めて頂ければと考え栽培技術の向上や啓蒙に日々努めています。

問い合わせ先

JA山口県下関統括本部 菊川営農センター

TEL : 083-287-1237

美 祢

JA山口県美祢ほうれんそう部会

～主な品目～
ほうれんそう

実施体制

設立 H15.9
代表者 部会長 藤村茂樹
会員 20名



面積情報

栽培面積 2.8ha

1 設立経緯など

昭和56年頃に美祢市於福町で栽培が開始され美祢市内各地域に栽培が広まった。平成14年に広域集出荷場が整備され、平成15年9月に美祢市内の3部会を統合し、現在の部会が誕生した。

*エコファーマ取組開始 H15～

2 販売情報

【品目】
ほうれんそう

【出荷時期】
周年

【主な販売先】
宇部大同青果・農協直販

3 主な取組内容

【生産面】

- ・堆肥等を使った土づくり
- ・適正施肥を目指した土壌診断の取組
- ・周年安定栽培を目指した土壌消毒の取組
- ・栽培技術向上に向けた取組
(ほ場巡回・先進地視察研修)

【消費・販売面】

- ・市場出荷を中心とした量販店販売
- ・学校給食



山口県美祢産
ほうれんそうの荷姿
150g/袋



雨よけ栽培
ビニールハウス内の様子



雨よけ栽培 ほ場の様子

4 今後の展望

部会員の高齢化・栽培面積減少に対応した新規部会員獲得、気候変動による栽培マニュアルの見直し、品種試験、品質保持対策(袋の密閉等)が今後の課題です。

遊休施設を活用しながら新規就農者の受け入れにも力を入れています。

5 アピールポイント

美祢産ほうれんそうは堆肥等での土づくりに取り組んでおります。

エグ味の少ない美祢産ほうれんそうをご賞味ください。

問い合わせ先

JA山口県美祢統括本部 秋芳営農センター TEL : 0837-62-1311

長門

長門穂垂米栽培者協議会

～主な品目～

水稻

実施体制

設立 H16.6
 代表者 部会長 中原康博
 会 員 40名

面積情報

栽培面積 65ha



1 設立経緯など

取引先（瑞穂糧穀株式会社）の提案を受け地域一体となり「特別栽培米」に取組む

*会員の一部はエコファーマーに取組5名（R7.12現在）

2 販売情報

【品目】
 水稻（特別栽培米／コシヒカリ・ひとめぼれ）

【出荷時期】
 9月～

【主な販売先】
 瑞穂糧穀株式会社契約商品「穂垂米」を県内量販店で販売

3 主な取組内容

【生産面】

- ・ 化学合成農薬の使用回数を県慣行基準と比較して5割以上低減、化学肥料(窒素分量)を県慣行基準と比較して9割以上低減
- ・ 研修会等開催
 （7月：現地研修 12月：実績検討会）
- ・ 環境保全型農業直接支払交付金（総合防除）への取組

【消費・販売面】

- ・ 稲刈り体験ツアー開催 9月

栽培場所は標高200mに位置する寒暖差に恵まれた米どころであり、ゲンジボタル生息地として天然記念物指定のホタルの里としても知られています。

穂垂米は「頬が垂れるほどおいしいお米」というコンセプトに基づき、生産者・JA・関係機関が一体となって取組みを進めています。



俵山下安田の水田「穂垂米」稲刈り体験会



はげかけの様子



稲わらの栄養や旨味が米に残り、甘みとコクが強い特徴があります

4 今後の展望

「特別栽培米」の取組を継続します。
 手間がかかるため生産量は少ないですが、こだわりの農家により自然の力を利用した高品質なお米を作ります。

5 アピールポイント

水がきれいなホタルの里（俵山・真木地区）で、化学合成農薬・化学肥料の使用量を低減した取組みを行っています。

問い合わせ先

JA山口県長門統括本部 長門東部営農センター TEL：0837-22-3170

萩

びわ専門部会

～主な品目～

びわ

実施体制

設立 H18.9
 代表者 部会長 神田貞夫
 会員 17名

萩市三見地区

面積情報

栽培面積 2ha

1 設立経緯など

萩市三見 地区において、化学肥料及び化学農薬を低減した環境にやさしい農業生産に部会全体で取り組んでいる。

*エコファーマー取組開始 H15～

2 販売情報

【品目】
びわ

【出荷時期】
5月～6月下旬

【主な販売先】
J A直売所・県内市場・萩青果市場・
地元スーパー・道の駅

3 主な取組内容

【生産面】

- ・ 栽培技術向上に向けた取組（勉強会、ほ場巡回、先進地視察研修等）
- ・ 有利販売に向けた出荷規格の見直し、出荷資材の検討を進めている
- ・ 鳥獣被害対策の検討

【消費・販売面】

地元道の駅でのPRイベント販売
PRチラシの作成

山口県萩市、特に三見（さんみ）地区は、びわの栽培が盛んな地域です。

JA山口県萩統括本部の「びわ専門部会」が中心となり、高品質なびわの安定生産と出荷を行っています。



びわの栽培風景



例年5月下旬から6月頃に集出荷説明会や目合わせ会が行われ、6月～7月に出荷の最盛期を迎えます。

4 今後の展望

- ・ 部会員の高齢化が進んでいる為、新規就農希望者の確保を検討していく。
- ・ 栽培品種の見直し
(なつたより・クイーン長崎 等)

5 アピールポイント

安心・安全な栽培管理に努め一果ずつ丁寧に扱った特産のびわを是非ご賞味ください。

問い合わせ先

JA山口県萩統括本部 指導販売課

TEL : 0838-22-4230

萩

福賀すいか部会

～主な品目～

すいか

実施体制

設立 S63.3
 代表者 部会長 木村武和
 会員 5名



阿武町福賀地区

面積情報

栽培面積 2.2ha

1 設立経緯など

阿武地域での水田添削作物の一つとして昭和55年頃に5名ですいかの栽培を開始し、農協の共販部会を結成

- *エコファーマー取組開始 H14～
- *エコやまぐち農産物／エコ50に取組
- *やまぐちブランド認定 H27

2 販売情報

【品目】
すいか（紅大・羅王）

【出荷時期】
7～8月

【主な販売先】
県内市場・小売り、県内スーパー、道の駅

3 主な取組内容

【生産面】
有機肥料を主体に栽培
1株1果取り

栽培技術向上に向けた取組
勉強会、ほ場巡回、先進地視察研修等

【消費・販売面】
県内各地の道の駅での試食販売
PRチラシの作成・配布
小売販売先の拡充

福賀すいか部会はシーズンにおよそ9000玉のスイカを出荷しています。産地としては極小で、全国のスイカの中で見ればシェア率0.035%という規模の小ささですが妥協せずに作りあげています。



部会員はエコファーマー認定を受け、化学肥料低減、農薬使用回数を極力減らし栽培しています。



甘さを引き出すため天然塩を使用し、1株1果どりで丹精込めて育てています



生産農家が責任をもって等級を判別し、出荷しています。

4 今後の展望

部会員の高齢化が進んでいる為、労力補充の仕組みを検討していきたいと考えています。

5 アピールポイント

福賀スイカは、毎年夏になると地元道の駅でスイカまつりを開催しています。
1株1果どりをして大玉です。
独特のシャリシャリ感をおたのしみください。



山口県環境負荷低減事業活動事例集 Vol.1
～土づくり+化学肥料・化学農薬の削減に取り組む農業者～

発行日 令和8年（2026年）3月
発行者 山口県みどりトータルサポートチーム
（山口県地域農業戦略推進協議会内）
連絡先 midori-support.agri★pref.yamaguchi.lg.jp
※迷惑メール防止のためメールアドレスの表記を一部変更しています。
メール送信の際は「★」を「@」に置き換えてください。